

2022年度 学校自己点検・評価

日本芸術専門学校

目次

I. 教育理念・目的・人材育成像	1
II. 学校運営	1・2
III. 教育活動	3-5
IV. 学修成果	5・6
V. 生徒・学生支援	6-8
VI. 教育環境	8-10
VII. 生徒募集	10・11
VIII. 財務	12
IX. 法令等の遵守	12
X. 社会貢献・地域貢献	12
XI. 国際交流	13・14

I. 教育理念・目的・人材育成像	
1-1 学校の教育理念・目標の設定	3つの教育理念(感動の教育、品格の教育、変革の教育)と2つのミッション(Precious Treasure 教育、100%)を掲げている。 変革の教育は、変革(Change) 挑戦(Challenge) 達成(Conquest) という3つの要素から成るが、「達成」の英語表記について、昨今の世界情勢を鑑み、Conquest から Complete へ変更した。
1-2 時代、社会、学習者のニーズへの適合 ※重点項目①	プロフェッショナルになるための学びと、本物のエンターテインメントを結び付け、基礎から高度な技術にいたるまで、幅広いスキルを身につける独自の教育を行うことで、目まぐるしく変化する学園内外の環境に柔軟に対応し、様々なニーズに応えている。
1-3 定期的な点検、見直しの実施(時期・方法・組織)	教育理念や目標についての見直しは、必要な際に適宜行うこととしている。方法は職員会議や連絡会での議論。
1-4 教育理念・目標の教職員・生徒・学生等への浸透方法、浸透度	学校のホームページにも教育理念や目標の内容を掲載し、認知度を高めている。 具体的な浸透度について、入学式等で説明、教職員の職員証裏に教育理念等を記載し常に携帯している。

II. 学校運営	
2-1 役員の選定の基準の適正さ	役員就任時等において、理事会、評議員会による包括的承認を必ずとり、競業や利益相反についても十分留意することで、選定基準の適正さを保持している。
2-2 理事会、評議員会の開催状況	2022年度は4回理事会と評議員会を開催した。予算や決算、学則変更の承認などを行った。
2-3 寄附行為の定期的な点検と見直し	私学法の改正に伴い、今後も定期的に見直しをしていく必要がある。
2-4 事務組織の明確化	組織図が、事務組織を兼ねている。 学園全体の組織図の他、校舎ごとの組織図を作成し、それと校務分掌を連動させることで、さらなる組織の明確化を図っている。校務分掌についても随時更新している。
2-5 学校運営会議、教育会議などの定期開催	大森校の教職員全員による、複数回の職員会議を引き続き行い、広報活動、学内行事の進行状況や学生の成績管理など、情報共有に取り組んでいる。議題については、事前に共有しておくことで、議論の時間を有効活用しながら内容を深めている。 今年度は連絡会や経営会議に加え、分科会や実務者会議を行うことで、項目ごとの議論を深め、より各校舎の現場担当者同士の情報共有を行うことに注力した。
2-6 各会議の内容と適正さ	各会議において、必ず議事録をとり重要な記録として保存している。実際の発言などを議事録に詳細に盛り込むことで、より適正な会議を行っている。

2-7 諸規程の制定	今年度該当していない。
2-8 諸規程の整備及び職業安定所への届出	顧問の社労士に適宜相談し、諸規程の整備をしている。制定/改訂した際は、その都度各職業安定所へ届出を行っている。
2-9 諸規程の定期的な見直し	随時規程の見直しを行うことで、多岐にわたる学内業務の効率化に努める。
2-10 学則等の定期的な見直し	2022年度からミュージカル学科を新設した。今後も専門学校のみならず附帯事業に関する定期的な見直しや検討を行う予定。
2-11 学生及び文書、備品等を守るための防犯対策の整備	今年度も引き続き防犯対策を行っているが、今後も適宜整備を行う必要がある。
2-12 各教職員の防犯に対する認識の徹底	各教職員の防犯に対する認識として、朝と帰りの見回りの際にチェック項目を作成し、校舎内の点検を毎日継続して行っている。過去に、部外者が玄関に侵入し大声をあげる場面などもあったため、引き続き警備会社との連携を強化している。また各校舎さすまをを設置している。 2023年度は担当警察署指導の元で、教員向けの防犯対策講習を実施予定。 SECOM 緊急連絡ボタンも共有緊急時に備えている。 防犯に関連して、教職員の緊急連絡先を改めて確認した。各講師の緊急連絡先も確認した。
2-13 学校安全保健計画、消防計画の作成	地震、火災等の際の緊急対応マニュアル、行動フローチャートを作成し、職員室に掲示している。 それに加え今年度も引き続き、感染拡大防止及び感染時対応マニュアルを更新している。 また校内で緊急事態が起きた際に、職員室に至急連絡ができるように、職員室の電話番号を各教室に掲示した。 2023年1月6日には、全教職員を対象に、大森消防署の救命救急講習を受講し、緊急事態に備えている。
2-14 個人情報保護法の遵守	教職員について、入職時と退職時に個人情報保護を遵守する旨の同意書にサインをもらっている。また教職員採用時、入試の際等、個人情報遵守についても内部でルールを作り行っている。今後も遵守の徹底に努めたい。
2-15 セクシャルハラスメントの防止、対応マニュアルの作成	就業規則にハラスメント防止に関する規程を明記している。 講師契約の内容にも、ハラスメント防止に関する注意書きを盛り込んでおり、適宜相談等も行っている。マニュアルなども整備し、学園環境のさらなる改善に努める。
2-16 相談窓口の設置と適切な対応	教職員の職場環境に関する相談、意見を述べる場として、第三者相談窓口を設けることで、相談しやすい環境を作っている。 ここでの個人情報を守られ、適宜必要な対応が適切に行われている。

Ⅲ. 教育活動	
3-1 教育理念、目標の反映	3つの教育理念(感動の教育、品格の教育、変革の教育)に沿ったカリキュラム編成を実施している。
3-2 カリキュラムの構成 (教養科目と専門科目、座学と実習など) ※第2回 当日討議項目①	主に、実績のある担当講師による専門科目(演習・講義)となっている。その他、資格の取得が可能な授業(整体・ヨガ)を開講している。
3-3 カリキュラムに対する学生・卒業生の評価	学生、エンターテインメント業界のニーズに合わせたカリキュラムを作成し、その点において高評価を受けた。 少人数制での手厚い授業を提供するため、また新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、各授業に定員を設け、履修希望者が多い場合は抽選を行った。年度の途中で定員に余裕ができた場合は聴講可能授業として開放する科目を設ける対応も行っている。
3-4 カリキュラムの定期的な点検及び見直し ※重点項目②	授業発表や行事での本番、進級・卒業試験など、学生の成果・成長を定期的に教職員が確認し、学生に必要なスキルについて確認しあうとともに、学生回答のカリキュラムアンケート結果も確認し、カリキュラム会議にて授業科目・担当講師を検討している。 2023年度より、教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの見直しを行っていく予定である。
3-5 実習システムの現況と今後の見直し	業界で活躍する企業、業界団体によるカリキュラムを取り入れているが、インターンシップ等の実習システムの連携にまだ乏しいのが今後の課題である。職業訓練校であるということをより明確なものにするため、そして卒業後、即戦力のある人材を育成するため、2023年度より、企業や劇団での現場実習を取り入れたカリキュラムを実施予定である。
3-6 シラバスの作成・学生への提示状況	各授業の担当講師にニーズを伝え、シラバスを作成し、授業計画を立てた。学生専用の共有クラウドや学校ホームページにそれらを掲載し、いつでもスマートフォンで見ることができる。
3-7 教育方法の工夫・研究の取り組み	担当講師と教職員で連携を取り、授業成果のアウトプットの場を設けるなど、実践的な授業を行った。また、今年度より東京音楽大学との交換授業を一部行っており、他学校・他分野との交流の場を設けている。
3-8 生徒・学生の授業評価とその反映	GPAを導入し、学内の成績評価としている。 GPAの評価方法は以下である。 各授業全出席で100%として、出席率70%以上で成績評価の対象となる。 評価点は、各授業科目の試験(実技または筆記)及び学生の学修意欲を見て100点満点を基準として、40点以上で単位修得としている。また、その評価点により100～85点を評価5、84～70点を評価4、69～55点を評価3、54～40点を評価2、39～0点を評価1として成績が通知される。なお、成績が1の場合は、単位取得不可となる。 GPAは、評価5を4点、評価4を3点、評価3を2点、評価2を1点、評価1を0点として換算し、(評価5の単位数×4点+評価4の単位数×3点+評価3の単位数×2点+評価2の単位数×1点)の合計を各学生の履修授業科目の合計単位数で除した数を求めることによって算出する。 またその結果は、卒業時の学業優秀者の表彰候補者選出などに活用している。

3-9 卒業生・企業等の評価と活用	学内公開オーディションで、業界関係企業の参加企業数約 70 社による学生評価を行い、その評価から、学生に足りないスキル等を次年度カリキュラム案に活用した。また、学生は自身への評価を知ることで、今後のスキルアップに繋げている。
3-10 成績不良者への対応	<p>学科担当制度を設けており、出席率の低い学生に対しては、担当教員から学生本人に警告を行っている。また、前期末と年度末に履修授業の出席状況を学生に配布し、欠席数が特に多い学生については、三者面談を行い、保護者との連携を重視した体制づくりを行っている。</p> <p>修業年限で卒業することが望ましいが、身体や心の不調がある場合、しばらく欠席や休学をするという選択も必要なため、学科担当教員と面談を行い、一緒に卒業までの計画を考え、留年した場合でも、卒業に必要な教養・実技を身に付け卒業できるよう、サポートを行っている。</p> <p>2022 年度卒業生のうち、成績不良による未卒業者が 2 名、休学による未卒業者が 1 名となっている。</p>
3-11 学則・細則・内規に準拠した評価	「Guidance Book」に進級・卒業要件、各学科の必修科目等を記載し、学生に配布、ホームページや共有クラウドにも掲載した。更に、ガイダンスで教職員による説明を行い、学校生活における様々な規則について理解を深めた。また、データ配布する「シラバス」にて、GPA の算出による成績評価方法を記載し公表した。
3-12 各成績判定者の審査基準、意思の統一	担当講師全員に、正確な出席記録や試験の実施、評価点の基準について、教職員がガイダンスを行い、共通した評価方法を徹底した。
3-13 評価の客観性・妥当性・信頼性・公平性	担当講師による評価を受け、教職員で客観性・妥当性・信頼性・公平性を意識し会議を行い、成績評価の最終確認を行った。
3-14 年度別合格率の推移、問題点の把握と対策	本校はエンターテインメント業界を目指す学生が通う学校のため、資格取得が目的ではなく、自身の体のケアのためのヨガインストラクターと整体師の授業を開講している。その中でも資格を取得する学生は、全学生のうち1割程度となっている。
3-15 不合格者への対応	上記の通り、資格取得を目的としていないため、対応等は行っていない。
3-16 専任教員と非常勤講師との数的・男女のバランス	専任教員は 3 名、業務委託契約を行っている講師は 68 名。男女バランスは 5:5。(2023 年 1 月末時点)
3-17 教員の平均年齢とバランス	教員の平均年齢は 36 歳。(2023 年 3 月末時点)
3-18 1 人当たりの担当授業時間数の点検	授業は全て業務委託契約講師が行っており、専攻分野がそれぞれ違うため、1人1授業が基本となっているが、カリキュラム会議や授業アンケートによって、必要に応じて複数を受け持っている。
3-19 担当業務の内容と全体のバランス	専任教員の業務は、学生の進路や学校生活における相談対応、カリキュラム作成、学校行事の運営、講師料・授業料及び奨学金・留学生等の対応と、多岐にわたっており、1人1人の業務量のバランスを考え、分担していくことが今後も課題である。
3-20 定期的な人事考査の実施	定期的に管理職との面談を行い、貢献し達成した業務の報告・自己評価を行った。

3-21 教員の教育能力開発への取組状況 ※第2回 当日討議項目②	2022年度は、外部で行われた音響・照明の研修に参加した。今後も更なる教育能力開発へ取り組んでいく。
3-22 教員1人あたりの学生数の割合	専任教員1人あたり全学生78名のうち約40%を見ている。(2023年3月末日時点)
3-23 職員の人数並びに年齢構成、男女のバランス	職員は法人本部の職員を入れて5名、平均年齢は50歳。(2023年3月末日時点)男女バランスは2:1。
3-24 担当業務の内容と全体のバランス	担当業務は教務事務(予算作成・管理、講師料・授業料及び奨学金・留学生等の対応)から附帯教育、企画営業、広報活動まで多岐に渡る。人員配置については、定期的に検討を行っている。
3-25 定期的な人事考査の実施	定期的に管理職との面談を実施している。
3-26 各職員の意思疎通(報告・連絡・相談)	2-5にも記載のとおり、月に1回程、高等課程の教員も含めた学園全体での連絡会を行い、報告・連絡・相談を行っている。また、職員室内で常に共有することを意識し、業務にあたっている。

IV. 学修成果

4-1 就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か ※重点項目③	<p>○就職支援 学内での外部向け公開オーディション、企業面談の開催、学内企業説明会の開催、株式会社リクルートによるマナー講座・面接模試、担当教員による個人面談等を行った。 また、2022年度より附帯教育において、学びを続けたい学生が更に高度な授業を受け、外部向け公開オーディションに挑戦することができる体制づくりを行った。</p> <p>○資格取得 整体師、ヨガインストラクターの資格取得ができる授業科目を開講した。ヨガインストラクターの授業については、学生のメンタルケア及び心と体のバランス調整にも繋がっている。</p> <p>○中退予防の取組 担当教員との個人面談を行い、修学上または進路の不安事項について相談を受け付けた。その他にも希望があり次第、都度面談、保護者との三者面談等を行った。また、不登校になった学生の保護者に担当教員から連絡し、保護者との連携を心がけた。 昨今、特に心のケアが必要な学生が多く、教員のみでは専門的な知識を持つての対応ができないため、今年度も臨床心理士の先生に2週間に1度程来ていただき、誰でも気軽にカウンセリングを受けられるような体制を作り、学生に周知した。臨床心理士の先生とは、必要な情報を教職員に共有してもらっており、その後、教職員から必要な対応をするなど、連携を取っている。</p>
---------------------------------	---

<p>4-2 動向分析 ※第2回 当日討議項目③</p>	<p>○就職率(プロダクション等の企業への所属含む) 2022年度卒業生においては、プロダクションへの所属または企業への正社員、契約社員を就職として卒業生38名中、13名がプロダクションへ所属、正社員が1名、契約社員が1名で就職率は39%だった。 また8名が養成所または研究生、登録扱いが2名、26%で、進学が1名、所属不明未定が4名、その他、8名程がフリーで活動している。例年11月に学内で外部向けオーディションが行われ、各プロダクション・劇団などと学生が面接を行って所属先就職先を決まる。</p> <p>○資格取得率 本校はエンターテインメント業界を目指す学生が通う学校のため、資格取得が目的ではなく、自身の体のケアのためのヨガインストラクターと整体師の授業を開講している。その中でも資格を取得する学生は、全学生のうち1割程度となっている。</p> <p>○中退率 8.9%(1年生・・・2名/2年生・・・5名) 前年度より1.5%増。 主な退学理由は、心身の不調や進路変更となっている。</p>
<p>4-3 中途退学への対応</p>	<p>学生が退学の意志を申し出た際に、必ず担当教員と学生、保護者で三者面談を行い、保護者の同意、学生の意志を確認した。その後、学校長へ報告し、すみやかに退学手続き対応を行った。また、退学の原因を追究し、カリキュラムや講師、教育環境の見直しを随時行った。</p>
<p>4-4 卒業生の活躍の状況</p>	<p>○プロダクション・劇団所属、マネージメント業で活躍している卒業生の主な進路先 ZERO CREATION、ナノスクエア、ミュージックエンタープライズ C&O プロダクション、EARLYWING、演劇集団 円、山王プロダクション スーパー・エキセントリックシアター、東京ドラマハウス、リンクアップ レイ・グローエンタテインメント、アニモプロデュース、UTY ミュージックエンタープライズ、IAM IAM AGENCY、ワーサル、アイリンク</p> <p>その他、ACM 横浜アンパンマンこどもミュージアムやフリーで活躍している卒業生がいる。</p>

<p>V. 生徒・学生支援</p>	
<p>5-1 担任、担当者による 進路・就職相談の実施 ※第2回 当日討議項目④</p>	<p>定期的に進路希望調査を行い、担当教員との面談を実施した。</p>
<p>5-2 卒業後の進路調査の徹底 ※第2回 当日討議項目⑤</p>	<p>卒業時に、卒業生全員から必ず最終進路先報告書を回収し、把握している。</p>
<p>5-3 新たな求人の開拓のための活動</p>	<p>学内での外部向け公開オーディションや、企業説明会に向け、新たな企業参加数を増やすための連絡活動、また昨年度から業界での経験・ネットワークのある職員が新たに増え、広報活動を積極的に行っている。今年度は過去の経験を踏まえ、外部向け公開オーディションの案内をする企業を厳選した。</p>

5-4 カウンセラーによる学生相談室の設置並びに相談システム	4-1〇中退予防の取組にも記載のとおり、昨今、需要が高まっているを感じているため、今年度も臨床心理士による学生相談室の設置を行い、学生に周知済みである。										
5-5 相談者の守秘義務の徹底	相談者の内容は、教員・業務委託契約講師への必要とする共有を除き、他者へ漏らさぬよう、注意を払っている。										
5-6 相談内容によるカウンセラーと教職員との連携	必要な情報を臨床心理士の先生と教職員とで共有し、その後、教職員から必要な対応をするなど、連携を取っている。また、必要に応じて適切な医療機関への受診を勧める体制づくりを進めている。										
5-7 奨学金制度の整備	<p>本校で案内している奨学金の種類は以下である。</p> <table border="1" data-bbox="459 577 1449 1868"> <tr> <td data-bbox="459 577 699 846">日本学生支援機構(JASSO)</td> <td data-bbox="702 577 1449 846">在学中の学校からの予約採用、本校入学後の在学採用で申し込み。※給付奨学金制度は在学中の学校からの推薦となる。※予約採用に関しては在学中の学校窓口へ問合せ。※本校より学生支援機構へ推薦後、採用されない場合もある。 https://www.jasso.go.jp/</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 851 699 1097">日本政策金融公庫(国の教育ローン)</td> <td data-bbox="702 851 1449 1097">全額政府出資の政府系金融機関のため、公的な融資制度として安心して利用できることや、低利で手続きが簡単であることから、全国的に多くの学生が利用している。入学前審査が可能で、早めに学費準備ができる。 https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1102 699 1370">オリコ学費サポートプラン</td> <td data-bbox="702 1102 1449 1370">学校提携の教育ローン。入学金・学費などの明細を元に、申請したい金額を指定することで、オリコから学校へ直接申請金額が振り込まれる。納付時期毎に申し込みができ、多彩な返済プランを選択できる。 https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&do=confirm</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1375 699 1594">新聞奨学生</td> <td data-bbox="702 1375 1449 1594">大手新聞社が運営する奨学金制度で、主として新聞配達や集金などの業務を行う代わりに、学費の貸与・月々の給与の支払いが受けられる制度。食事や住居の提供もあり、安定した学生生活が送れるよう配慮されている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="459 1599 699 1868">公益社団法人東京都私学財団東京都育英資金貸付事業</td> <td data-bbox="702 1599 1449 1868">都内に居住する在学学生で、勉強意欲がありながら経済的理由により修学が困難な学生に、無利息で奨学金を貸与できる制度。※申込み資格に全て当てはまる人が貸与の対象。 http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html</td> </tr> </table> <p>奨学金の申込方法など、学生だけでは把握しきれないことがあったが、保護者とも連携を取り、スムーズに手続きを行えている。</p>	日本学生支援機構(JASSO)	在学中の学校からの予約採用、本校入学後の在学採用で申し込み。※給付奨学金制度は在学中の学校からの推薦となる。※予約採用に関しては在学中の学校窓口へ問合せ。※本校より学生支援機構へ推薦後、採用されない場合もある。 https://www.jasso.go.jp/	日本政策金融公庫(国の教育ローン)	全額政府出資の政府系金融機関のため、公的な融資制度として安心して利用できることや、低利で手続きが簡単であることから、全国的に多くの学生が利用している。入学前審査が可能で、早めに学費準備ができる。 https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html	オリコ学費サポートプラン	学校提携の教育ローン。入学金・学費などの明細を元に、申請したい金額を指定することで、オリコから学校へ直接申請金額が振り込まれる。納付時期毎に申し込みができ、多彩な返済プランを選択できる。 https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&do=confirm	新聞奨学生	大手新聞社が運営する奨学金制度で、主として新聞配達や集金などの業務を行う代わりに、学費の貸与・月々の給与の支払いが受けられる制度。食事や住居の提供もあり、安定した学生生活が送れるよう配慮されている。	公益社団法人東京都私学財団東京都育英資金貸付事業	都内に居住する在学学生で、勉強意欲がありながら経済的理由により修学が困難な学生に、無利息で奨学金を貸与できる制度。※申込み資格に全て当てはまる人が貸与の対象。 http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html
日本学生支援機構(JASSO)	在学中の学校からの予約採用、本校入学後の在学採用で申し込み。※給付奨学金制度は在学中の学校からの推薦となる。※予約採用に関しては在学中の学校窓口へ問合せ。※本校より学生支援機構へ推薦後、採用されない場合もある。 https://www.jasso.go.jp/										
日本政策金融公庫(国の教育ローン)	全額政府出資の政府系金融機関のため、公的な融資制度として安心して利用できることや、低利で手続きが簡単であることから、全国的に多くの学生が利用している。入学前審査が可能で、早めに学費準備ができる。 https://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html										
オリコ学費サポートプラン	学校提携の教育ローン。入学金・学費などの明細を元に、申請したい金額を指定することで、オリコから学校へ直接申請金額が振り込まれる。納付時期毎に申し込みができ、多彩な返済プランを選択できる。 https://orico-web.jp/gakuhi/index.html?clientid=14566202&do=confirm										
新聞奨学生	大手新聞社が運営する奨学金制度で、主として新聞配達や集金などの業務を行う代わりに、学費の貸与・月々の給与の支払いが受けられる制度。食事や住居の提供もあり、安定した学生生活が送れるよう配慮されている。										
公益社団法人東京都私学財団東京都育英資金貸付事業	都内に居住する在学学生で、勉強意欲がありながら経済的理由により修学が困難な学生に、無利息で奨学金を貸与できる制度。※申込み資格に全て当てはまる人が貸与の対象。 http://www.shigaku-tokyo.or.jp/pa_ikuei/pa_ikuei1.html										

5-8 奨学金貸与者の推移	日本学生支援機構(JASSO)貸与奨学金受給者率	16.8% (昨年 30%)
	日本学生支援機構(JASSO)給付奨学金受給者率	16.8% (昨年 16%)
	<p>本校では奨学金利用者の中で、日本学生支援機構による貸与者がほとんどの割合を占めている。日本学生支援機構奨学金については、新入生は本校入学前に全員へ告知し、入学後すぐに行うガイダンスで説明会を行っている。2年生も同様に4月に告知し、説明会を行っているため、学生へ漏れなく周知することができている。</p> <p>また、高等教育の修学支援新制度の対象校のため、給付型奨学金を申請する学生が年々増えている。これにより家計が厳しい学生でも入学しやすくなり、学生の経済的負担を減らすことができる。</p>	
5-9 学生寮の有無、管理・サービス状況	学校保有の学生寮はないが、金額面や体験宿泊等の優遇を受けられる学生寮があり、資料請求時の案内、希望者への無料体験宿泊等の案内も随時行った。	
5-10 定期健康診断の実施及び受診項目	<p>学校における学生及び職員の健康の保持促進を図るため、保健管理に関して、必要な項目を安全な環境において実施した。</p> <p>受診項目は、身長・体重計測／視力／血圧／診察／心電図。</p> <p>健診当日も出欠を確実にとり、受診できなかった学生に対しては、後日近くの診療所で各自受診してくるよう伝えた。</p>	
5-11 卒業生のフォローアップ状況	<p>卒業生の活躍は学内外で告知を行っており、教室利用や受講等の制度は整っているが、就職支援等を行っていないため、今後、同窓会組織づくり等行い、卒業生へのフォローアップを検討したい。</p> <p>今年度からは卒業後もレッスンを継続できるよう、ディプロマクラスを新たに開講した。まずは卒業生に学校の公演を知ってもらえるよう、そして来校してもらえるよう、SNSのアプローチ方法、ホームページへの掲載の仕方などを考えたい。</p>	
5-12 卒業生や就職先等関係者の意見聴取等の活用状況	例年では学内で企業説明会及びワークショップを開催した際、就職した卒業生の近況や本学生の評価、業界の現在のニーズについて意見聴取を行うなど関係企業との連携を大事にし、学生指導等に活かしているが、今年度においても新型コロナウイルス感染拡大状況もあり、卒業生について企業との連携があまりできていない状況である。	

VI. 教育環境	
6-1 施設の使用状況	平日 9:00～18:30、土 9:00～17:00、日 9:00～16:30 で授業以外にも、学生はオンライン予約システムで教室利用申請を行い、教室・設備を使用することができることとした。
6-2 普通教室、実習室の面積 (全体、学年1人あたり)	ミュージカル学科の普通教室として、第3教室(101.58 m ²)、演劇学科の普通教室として、第11教室(80.61 m ²)、芸術学科の普通教室として、第5教室(49.15 m ²)第6教室(49.15 m ²)を設置している。

6-3 保健室・休憩室の整備	保健室では枕カバーを使い捨てのものとし、寝具も定期的にクリーニングを行うことで、衛生面に気を配っている。休憩室も、机など定期的に消毒を行っている。
6-4 自学・自習室の有無	学生が自由にパソコン作業や、自学、DVD 観賞等を行えるスペースがある。今年度、音楽編集ソフト CubasePro に加え Office365・AdobeCreativeCloud を導入し、プロフィール作成や企画書作成、学校イベントチラシ等のデータ編集、画像編集や動画編集等にも対応した事により学生の作業できる内容の幅が広がった。 授業以外でも学生が自主的に撮影等できるように関連機材を購入し環境を充実させた。
6-5 各室の安全性、セキュリティ対策の状況	玄関や各部屋に警備カメラを設置しており、不審者の出入りがないか、常に職員室で確認できるようにしている。 今年度は引き続き衛生面での対応を強化し、ドアや窓の常時開放による空気の循環と、使用後には必ず床や机等の使用した箇所のアルコール消毒を徹底。玄関・各教室にもアルコール手指消毒液を設置、感染症対策を心がけている。 また、玄関には瞬時に体温が測れる、液晶ディスプレイ付き体温計を引き続き設置している。 公演の際は玄関に靴裏除菌マットを使用し感染症対策を継続している。
6-6 卒業生の利用希望への対応	申請し、許可された者が有料(卒業生特別価格)で利用することができる。今年度は卒業生のみならず、外部への施設貸出も再開し、積極的に受け入れを行った。
6-7 教育用機器備品の整備、充実度	各教室に設置されている機器については、毎年度、問題がないか十分に確認し、授業や行事活動に支障のないよう整備を行う。 また、業界のニーズにあったパフォーマンスをするにあたって必要な機材を定期的に見直し、常に最新のものに触れる環境を用意している。 教室利用申請のシステムを導入し、より円滑に申請ができるようになり、空き状況の確認を学生がしやすくなった。
6-8 視聴覚、情報機器の整備、充実度	現在は DTM の授業や個人の音源編集で使用している iMac に動画や画像編集も含めた Adobe の Creative Cloud・Office365 を導入した。これにより個人の編集技術が増進している。 今年度は保守終了に伴い Wi-Fi 機器の更新をおこない、Wi-Fi 環境についてもより繋がりやすい Wi-Fi 6 規格対応の機種に更新された。引き続き学生にも学内 Wi-Fi を提供している。
6-9 学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成	例年、学校行事ごとに、セクションを分け、学年ごとに学生リーダーを設けており、その学生リーダーを中心に学校行事の運営を行い、学生の主体性を大事にすることで、連帯意識の育成に注力している。
6-10 学校行事による学生、教職員間の連帯意識の育成	各担当教員は、各学生リーダーと連携を取り、情報共有を徹底し、学校行事運営のサポートを行った。
6-11 担任制による学生への対応の徹底と認識	ガイダンス時に、学生全員に向けて担当教員の紹介を行った。 担当教員は、授業の出欠状況の把握・学納金支払い状況の把握・学校行事の運営・進路相談等を随時行い、必要に応じて個別での面談・指導も行うことで、学生への個別の対応を強化している。
6-12 正課授業内に発生した事故への適切かつ迅速な対応	全学生が、災害傷害保険、インターンシップ活動賠償責任保険に加入しており、正課授業内に発生した事故は、教務事務担当者がすみやかに保険の手続きを行っている。2022 年度保険適用者は 2 名だった。(2023 年 1 月末時点)

	<p>正課授業内に事故が起きた場合、離れた教室でもすぐに学生が職員に報告できるよう、全ての教室内に緊急連絡先の掲示を行った。各教室には防犯カメラが設置されており、必要に応じて、事故の原因を調べるためにも使用している。</p> <p>また、玄関に AED を設置し、全ての職員が緊急時に素早い処置を行うことができるよう、2023 年 1 月 6 日には学校職員を対象とした救命救急講習を行った。</p>
6-13 防災の対応マニュアルの作成と適切な対応	<p>防災マニュアルを作成しており、災害時にはそれぞれ担当となっている教職員が配置につき、対応する準備を整えている。</p>
6-14 防災訓練等による学生への防災対策の周知	<p>年間スケジュールで防災訓練日を周知させ、全員が必ず参加するよう積極的に働きかけた。</p>
6-15 防災訓練の実施状況及び方法	<p>今年度は、2022 年 9 月 9 日に防災訓練を行った。今年度は管轄の大森消防署より、隊員の派遣及び消火器を借りて避難訓練と消化訓練を学内で行った。</p>

VII. 生徒募集	
7-1 広報活動開始の時期、方法	<p>○広報活動開始の時期 今年度の広報戦略については、前年度 1 月頃から具体的な検討を始め、高校訪問は 4 月から開始した。</p> <p>○入試の時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AO 入試 6/1 から開始 ・推薦入試 10/1 から開始 ・一般入試 11/1 から開始 <p>○広報活動の方法</p> <p>◇学校訪問、進学相談ガイダンス、体験授業、資料発送等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度より導入している WEB マーケティングのシステムを活用し、資料請求者や体験授業参加希望者等の情報管理をしている。 ・資料請求者の中の高 3 生のみを抽出し、在学している高校約 1000 校に連絡し、進路の進捗を聞いた上でアポイント取り、全国の高校に学校訪問を行った。 また、一都三県の演劇部のある高校への訪問を行った。 更に、第 76 回東京都高等学園演劇コンクール中央大会への協賛を行い、パンフレットへの広告掲載とプログラムへの本校フライヤーの挟み込みを行った。 ・高等学園演劇コンクールの会場として、山王ヒルズホールを使用することの提案を行った。 ・テレビ番組とのタイアップ(行列のできる相談所、音楽の日)や公演・番組収録の施設貸出を通して、学校名を全国に広く周知させた。 ・本校以外に資料請求や来校などを行っているエンターテインメント志望の高校生等に向けたダイレクトメールを約 3000 通発送した。 ・体験授業を年 34 回実施した。遠方等で参加できない方のために、オンラインによる体験授業・学校説明会・個別相談会・入試を行った。

	<p>また、遠方から希望があった場合は、出張学校訪問や、出張学校説明会・個別相談会なども行った。 今年度からは、3ヶ月ごとに、特別体験を約2回ずつ実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業が主催する、全国の高校生対象進路相談ガイダンスに参加し、エンターテインメントを目指す方との面談を行った。 ・本学園の高校生を対象とした共通授業(ミュージカル演習・テーマパークダンス・アニメアフレコ)を新たに開講し、専門学校に来校する機会を設けた。 また、全校生徒に向けたプレゼンテーションを行った。 <p>◇成果物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度のパンフレット、ホームページの表紙デザインをリニューアルし、当校のカリキュラムを反映させた独自の募集ツールを作成した。 ・3ヶ月ごとに体験授業のフライヤーを作成した。デザインも一新し、資料請求者や体験参加者に配布した。また、学校訪問時のツールとしても使用した。 ・公式HPの体験授業ページをリニューアルして、閲覧者がより見やすいデザインへと変更した。 ・学生寮案内ページを作成し、リンクを設置した。 地方から受験を検討する方に向けた導線を作成した。 ・駅から学校へのアクセスや、施設、学生の様子などの動画を、HPやSNS(TikTok)広告などで配信した。 ドローン撮影など、最新の機器を使って作成した学校案内動画を、エントランスのサイネージ、対面式の会場ガイダンスや、学校訪問時の説明等でも引き続き活用した。 ・イベントごとに、SNS((Twitter/Instagram 等)を職員で更新し、授業・イベント紹介や在校生・卒業生活躍情報、学校周辺の紹介など身近な情報を提供した。 ・公式HPにディプロマクラスのページを設置し、卒業後の進路や、他校からの入学者を募集する為の導線を作った。 <p>◇感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、引き続きエントランスでの検温、実施教室の換気、アルコール消毒、不織布マスクの着用を呼び掛けた。また、オンラインでの体験授業も引き続き行った。
7-2 誇大広告の自己点検(学校案内等)	<p>学校案内・ホームページなどのデザインや構成などは、年度ごとにブラッシュアップを行い、正確な情報の発信に努めた。 募集戦略会議、WEB広告月次レポート会議、WEB施策会議などを月ごとに行い、問題点を改善する努力をした。また、このような会議は今後も継続して行う予定。</p>

VIII. 財務	
8-1 学校経営における適正度の点検	監事による会計監査に加え、公認会計士による監査(中間監査と年度末監査)も適正に行われている。

IX. 法令等の遵守	
9-1 法令遵守の状況について	顧問弁護士の先生に法令遵守についてのアドバイスを適宜いただいている。

X. 社会貢献・地域貢献	
10-1 教職員・学生・生徒が活動するための学校の支援体制 ※第2回 当日討議項目⑥	<p>ボランティア活動等の情報を随時、掲示板で知らせ、学生へ積極的に参加を呼びかけている。多くのボランティアに参加した学生には、卒業式でその功績を表彰している。</p> <p>2022年度においては、新型コロナウイルス感染拡大のため、町内会で行われる予定だった夏祭りへの参加が中止になるなど、なかなか地域との交流の機会が少なかったが、同じく、町内会の子供たちが参加するハロウィンイベントでは本校も参加し、地域住民との交流が行われた。</p> <p>また、映像俳優コースの卒業制作や学園祭において、町内会のお店や地域の飲食店等をロケ地にした作品作りを行い、PRに繋がった。更に、卒業公演において、3年ぶりに協賛活動を行い、地域との交流、活性化を図った。</p> <p>更に、2021年度より町内会の理事会にも積極的に教職員が参加し、地域との繋がりを大切に、本校の教育活動にもご理解、ご協力いただく体制づくりを行っている。</p> <p>その他、昨年度より引き続き、2名の学生の声がATM還付金詐欺被害防止と万引き防止の防犯音声ポップに選ばれ、大森駅周辺の防犯に貢献している。今年度、その成果が称えられ、大森警察署より表彰を受けている。</p>

XI. 国際交流

11-1 留学生の受入れ・派遣のための体制整備

受験資格として、外国において12年以上の学校教育を修了した者で(財)日本語教育振興会の認定施設校(日本語学校)で6カ月以上の教育を受けた者、または、日本語能力試験(JLPT)のN1またはN2合格者の入学を受け入れている。

近年の留学生の受け入れ実績	
2020年	2名
2021年	1名
2022年	2名

過年度の課題点として、学納金が支払えず、不登校になる留学生がいたため、今年度より留学生の入試においては、下記を願書とともに提出必須とし、募集要項を改定した。

- ・留学ビザのコピー
- ・パスポートのコピー
- ・保証書
- ・日本語学習歴(またその証明書類)
- ・経費支弁書
- ・経費支弁者の残高証明書

留学生の入学があった場合、以下の報告を入国管理局へ行い、留学生管理体制の徹底を行っている。

- ・4月－受入れ状況報告
- ・5月、11月－現在の在籍状況報告
- ・3月－受入れ終了報告

また、留学生担当職員がおり、常に留学生のビザの期限を把握し、必要に応じてビザの更新手続き、学生サポートを行っている。

○留学生の就職サポート

- ・求人票を掲示し、学生がいつでも確認できるよう就職情報を案内している。
- ・年度内で企業説明会を設け、業界について学べる機会を設定している。

○留学生対象の奨学金について

奨学金希望者には、入学前から利用できる奨学金制度を案内し、手続きのサポートを行っている。

※日本留学奨学金パンフレット

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/scholarships/_icsFiles/afiedfile/2019/04/17/scholarships_2019_j1.pdf

上記受験資格を設けることにより、入学後も言語面で留学生が悩むことなく、日本人学生の中に入りコミュニケーションをとることができた。

11-2 国際交流の枠組

国際交流の枠組はないが、留学生受入れに関しては、問い合わせがあった際に都度対応を行っている。また、在学生については、例年10月に希望者でロンドンやニューヨークで演技・ミュージカルの研修を行っているが、今年度においても新型コロナウイルス感染拡大状況により、実施できていない。